

# 博多とアジアの映画 (93)

松浦 仁

1967-68(昭和43)年「ジャッキー・チェンはブルース・リーを凌駕する新しい香港・カンフー映画の新星となった。博多でもジャッキー・チェンが主演した「ドラゴンエンキー 酔拳」(1967-68)「スネーキーエンキー 蛇拳」(1967-68)「クレージーエンキー 笑拳」(1967-68)が打て続けに公開され、ジャッキー・チェンはアジアのスーパー・スターとして従来のカンフー映画ファン層だけでなく若者男女の幅広い層で支持された。

当時、ジャッキー・チェンは68'70年代の香港を代表する映画監督・プロデューサーで、ブルース・リー主演の「ドラゴン危機一髪」「ドラゴン怒りの鉄拳」を監督したロー・ウエイが設立した四維公社(ロー・ウエイプロダクション)に所属していたのだが、新興の映画製作会社だった思遠影業司(シー・ブナル・フィルム)と「ジャッキー・チェンが思遠影業司が製作する『本の映画』に主演する」という契約を結んだ。ところが、四維公社は思遠影業司が製作した一本目の「スネーキーエンキー 蛇拳」が大ヒットしたことで、思遠影業司との契約にもかかわらず、思遠影業司が「本の映画」のジャッキー・チェン主演作を製作する前にジャッキー・チェンが主演する「拳精」(監督は、四維公社の

代表ロー・ウエイ)を製作した。宇宙から落ちてきた隕石に刺激されて出現した妖精である拳精に拳法の極意を学び、寺を騒がす犯人と対決する少林寺の孤えない寺男(ジャッキー・チェン)の活躍を描いている。

「拳精」はジャッキー・チェンの新しい魅力を引き出す特撮あり、笑いあり、アクションありのバラエティに富んだカンフー映画だったが、四維公社がこれまでに製作したジャッキー・チェン出演作同様に興行成績は振るわなかった。ところが、思遠影業司製作の『本のジャッキー・チェン主演作「ドラゴンエンキー 酔拳」は大ヒットしたのだった。

「拳精」は、1968(昭和43)年6月14日から「不良少年」との二本立てで全国同時公開され、博多では福岡東映で上映された。「不良少年」は、裕福な家庭に暮らし、約束された将来に疑問を抱きはじめた今年が家を飛び出して自分の生き方を模索する、少年の姿を描いた結城昌治原作の同名小説を原作にした、新進気鋭の金田賢一を主演に抜擢した日本映画だった。「不良少年」と「拳精」の併映は、ミスマッチだったように思えるのだが、その後頻りにジャッキー・チェンのカンフー映画と日本の新作あるいは旧作映画との二本立てで公

開された。「拳精」は、7月11日まで福岡東映で上映され、翌日の23日から東映パラスでジャッキー・チェン特集として「笑拳」「酔拳」とともに再映された。1967-68(昭和43)年にジャッキー・チェンのカンフー映画が大ヒットするなかで、嘉禾電影有限公司(コルゲン・ハーベスト)は「コマチイタツチのカンフー映画」「雑家伝」 MONKEY FIST/KNOCKABOUT」(1967-68)を製作した。監督は、サモ・ハン・キンポーだった。

サモ・ハン・キンポーは、映画監督だけでなく俳優、武術指導をおこなうアクション監督、脚本家、プロデューサーを兼ねたマルチな映画人であり、香港のカンフー・アクション映画界の功労者だった。サモ・ハン・キンポーは、1967-68年に武術指導者として嘉禾電影有限公司の契約社員になった。ブルース・リーを敬愛したサモ・ハン・キンポーは「燃えよドラゴン」でブルース・リーと共演し、「死亡遊戯」ではブルース・リー死後の追加撮影で監督、武術指導を担った。また「ブルース・リーへのオマージュ作品である「燃えよドラゴン」を監督、自ら主演している。そして、後に盟友となるジャッキー・チェンとともに時代のニーズを先読みして、世界市場の視野に入れた新しい

アクション映画を製作する。

「雑家小子」は、お人好しで間抜けな詐欺師ジョンビの青年が、殺びれた相手の復讐のためにカンフーの達人から最高拳である「猿拳」を教しい修練のちに身につけ、犯人を倒してカンフーの大家になるコメディア・カンフー・アクション映画だった。変幻自在のアクション俳優な格闘シーンは、サモ・ハン・キンポーの武術指導によるものであった。さらに、サモ・ハン・キンポーは、詐欺師が換金屋からメックした金の延べ棒からおびおびけた金貨を騙し取る浪人の役で出演していた。

主演の「猿拳」を操る詐欺師の青年を演じたのは、ブルース・リー、ジャッキー・チェンに続く香港映画のスーパースター、ユン・ピョウだった。ユン・ピョウは、5歳で香港の中国戯劇学院に入学し、特に優秀な子どもを集めた「小小福」の最小メンバーに選ばれ、元彪(ユン・ピョウ)の芸名をもらった。同じ「小小福」のメンバーだったサモ・ハン・キンポー、ジャッキー・チェンらとともにブルース・リー主演の「ドラゴン怒りの鉄拳」「ドラゴンへの道」「燃えよドラゴン」に端役として出演した。「死闘遊戯」ではブルース・リーの足技やオートバイ・アクションのスタントをつとめた。そして「雑家小子」で

はじめて主演をつとめ、本格的なデビューを果たした。

「雑家小子」は、製作した嘉禾電影有限公司との長年のつながりでも東宝東和が輸入・配給した。邦題は「モンキー・フレスト 猿拳」で「ジャッキー・チェンのヒット作に倣ったのか? ジャッキー・チェンの主演作と間違えをうなタイトルだった。まず、1980(昭和55)年1月16日から東京で公開され、博多では1月30日から福岡東宝で公開された。

1980(昭和55)年は、1月に「モンキー・フレスト 猿拳」が上映されると、ジャッキー・チェンの主演作が「ドラゴンモンキー 酔拳」(2月〜3月、6月、福岡東映、駅前東映、スターシヨンスネア)、「カレシ・ジエモンキー 笑拳」(3月〜5月、福岡東映)、「ジャッキー・チェン大会 笑拳・蛇拳・拳精」(7月、東映パラス)で上映され、スターシヨンスネアを除いた東映系の映画館で次々に上映された。そしてこの年、ジャッキー・チェンは熊を持してアメリカ進出を果たした。嘉禾電影有限公司(香港)とワーナー・ブラザース(アメリカ合衆国)が共同製作し、アメリカを舞台にしたジャッキー・チェン主演のアクション映

画「バトルクローク・フロア」(1980)は、ジャッキー・チェンを世界的なスーパー・スターへの道を踏み出す第一歩とされた作品だった。

「バトルクローク・フロア」は、19



80年代のシカゴでカンフーを学ぶ青年(ジャッキー・チェン)がマフアアのボスに見初められてチキサスでおこなわれる世界中のフロ・フナイターたちが挑戦する格闘技大会「バトルクロー

ク」に出場することになり、「バトルクローク」で練り上げられる壮絶な格闘と敵対するマフアアの陰謀を描いている。監督は「燃えよドラゴン」の監督として知られ、未完だった「死闘遊戯」をサモ・ハン・キンポーとともに完成させた。格闘技の題材にしたアクション映画は数多く製作したロバート・クローアだった。全米週末興行収入成績第1位(1980年8月26日〜6月1日)を記録し大ヒットした。日本では東宝東和の配給で6月6日から全国一斉に公開された。博多では福岡東宝で公開された。

ジャッキー・チェンは1976(昭和51)年に四維会社と専属契約し、「新精武門」(日本では劇場未公開)後に「新・怒りの鉄拳」の邦題でテレビ放送された後、「レッド・ドラゴン 新・精武門」の邦題でビデオ化)など数本の作品に主演するのだが、興行成績が振るわなかったこともあり、四維会社との関係は良好ではなく、1979(昭和54)年に最大手の嘉禾電影有限公司に移籍した。そして、嘉禾電影有限公司の製作で、主演・監督したのが「ヤングマスター 師弟再闘」(1980)だった。

次に続く  
=図版は「バトル・クローク・フロア」=